オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(37)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(37)－

１．始めに

前報(36)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

BELIAPHONE　670-05-004

モーツアルト　SONATA Es-Dur
VARIATIONS Es-Dur
Marcia funebre c-Moll
Menuetto Es-Dur
Allegro B-Dur
Andantino Es-Dur
VARIATIONS C-Dur
Fantasie-Fragment f-Moll
Fugen-Skizze F-Dur
Menuetto F-Dur
Allegro B-Dur
Sonatine F-Dur

Gilbert Schuchter（ピアノ）

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

BELIAPHONE 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Low で聴いて行きます。
BELIAPHONE 盤も Gilbert Schuchter も初めて聴くもので、LINN LP-12 によりじっくり聴いていきます。
Gilbert Schuchter は 1919 年生まれのひと昔前のピアニストということで、ベーゼンドルファーを弾いていたというクレジットの記載があり、音質から判断するとまろやかな音ですのでベーゼンドルファーで間違いないようです。
演奏は、小粋な小曲ばかりですが、衒いのない丁寧な演奏で、ベーゼンドルファーの特徴が活かされています。

３．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、初めて聴く BELIAPHONE 盤の Gilbert Schuchter のモーツアルトですが、その演奏の特徴がよく表現されています。

以上